

# 序 文

東京大学医学部

井 上 英 二

本報告書は、「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」の最終年度の報告書である。

この研究は、昭和52年度に編成された第二次遺伝研究班が担当して行なわれた。この第二次遺伝研究班の編成に先立って、昭和49年から3年間共同研究を行なった第一次遺伝研究班の成果は、昭和49年度の「母子の健康と遺伝的要因に関する研究」、昭和50・51年度の「心身障害の発生予防に関する遺伝学的研究」の各研究報告書として刊行、配布された。一方、この第一次遺伝研究班の成果は、各分担研究者、研究協力者によって、約370篇の学術論文として報告され、さらに遺伝相談事業および先天性代謝異常スクリーニングという明確な形で、昭和52年10月より国民に還元されている。

昭和52年度から発足した第二次遺伝研究班は、この第一次遺伝研究班の成果に鑑み、遺伝学とその関連科学を応用した心身障害発生予防の研究を一そう推進するために組織され、共同研究を行なったものである。この共同研究は本年度をもって終了するが、その昨年度までの成果は、既刊の2冊の研究報告書に記載されている。本報告書が、この既刊の報告書とともに、今なお国民の重い負担となっている心身障害の予防方策を樹立する際の資料として活用されるならば大きな喜びである。

本報告書作成に当っては、とくに幹事である北川照男教授（日本大学）に一方ならぬお骨折を頂いた。また半田順俊教授（和歌山医科大学）、松永英部長（国立遺伝学研究所）、および和田義郎教授（名古屋市立大学）の各幹事、客観的立場よりご指導賜った井関尚栄所長（科学警察研究所）、高原滋夫教授（川崎医科大学）、田中克己名誉教授（東京医科歯科大学）の各評価委員、監事の役を果された福山幸夫教授（東京女子医大）と中込弥男博士（国立遺伝学研究所）、莫大な量の事務処理をお願いした経理担当者津田威氏と清水郁子氏に深甚の感謝を捧げるとともに、6年間にわたる本研究班の活動を直接間接に支持された厚生省母子衛生課その他の関係各位に深い敬意を表するものである。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 序文

東京大学医学部井上英二

本報告書は、「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」の最終年度の報告書である。

この研究は、昭和 52 年度に編成された第二次遺伝研究班が担当して行なわれた。この第二次遺伝研究班の編成に先立って、昭和 49 年から 3 年間共同研究を行なった第一次遺伝研究班の成果は、昭和 49 年度の「母子の健康と遺伝的要因に関する研究」、昭和 50・51 年度の「心身障害の発生予防に関する遺伝学的研究」の各研究報告書として刊行、配布された。一方、この第一次遺伝研究班の成果は、各分担研究者、研究協力者によって、約 370 篇の学術論文として報告され、さらに遺伝相談事業および先天性代謝異常スクリーニングという明確な形で、昭和 52 年 10 月より国民に還元されている。

昭和 52 年度から発足した第二次遺伝研究班は、この第一次遺伝研究班の成果に鑑み、遺伝学とその関連科学を応用した心身障害発生予防の研究を一そう推進するために組織され、共同研究を行なったものである。この共同研究は本年度をもって終了するが、その昨年度までの成果は、既刊の 2 冊の研究報告書に記載されている。本報告書が、この既刊の報告書とともに、今なお国民の重い負担となっている心身障害の予防方策を樹立する際の資料として活用されるならば大きな喜びである。

本報告書作成に当っては、とくに幹事である北川照男教授(日本大学)に一方ならぬお骨折を頂いた。また半田順俊教授(和歌山医科大学)、松永英部長(国立遺伝学研究所)、および和田義郎教授(名古屋市立大学)の各幹事、客観的立場よりご指導賜った井関尚栄所長(科学警察研究所)、高原滋夫教授(川崎医科大学)、田中克己名誉教授(東京医科歯科大学)の各評価委員、監事の役を果された福山幸夫教授(東京女子医大)と中込弥男博士(国立遺伝学研究所)、莫大な量の事務処理をお願いした経理担当者津田威氏と清水郁子氏に深甚の感謝を捧げるとともに、6 年間にわたる本研究班の活動を直接間接に支持された厚生省母子衛生課その他の関係各位に深い敬意を表するものである。